

# 式 辞

校長 長濱 雅仁

本日、ここに沖縄県立那覇西高等学校第29回卒業式を挙行いたしましたところ、徳田恭紀PTA会長、鴨沢友美同窓会副会長、各中学校の校長先生方をはじめ、多数のご来賓、保護者のご臨席をいただきましたこと、誠にありがたく、厚くお礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました355名の諸君は、本校に入学以来、学習に、学校行事に、部活動・生徒会活動に精一杯努力し、本日までたく卒業証書を手にする事ができました。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、まことにおめでとうございます。入学以来健康面や学習のサポートに、一日たりとも気の休まる日がなかったことでしょうか。それだけに、本日のお喜びはひとしおかと存じます。心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業本当におめでとうございます。

本校は、1987年に創立されて以来、「じりつ」の校訓のもと、有為の人材を世に送り出すことを使命としてきました。その使命の達成を目指して、教師と生徒が師弟同行で励むことが本校の校風となり、根付いてきていると確信しています。

私は、皆さんが、高校2年生の始業式の時、初めて顔を合わせました。その日以来、校長便り、校長講話等、機会あるごとに「素直な心は成長をもたらし、感謝の心は幸福を育む」「自らを鍛えるとは規則正しい生活を送ることである」「高い志、夢実現には一日一日の地道な積み重ねが大事」等、皆さんに熱く語り続けてきました。

その後、体育祭では躍動感溢れる姿を、文化祭では「チーム那覇西」としての団結力を、さらに部活動では技術、精神力の鍛錬に必死に打ち込む姿を、日頃の学校生活では、授業、清掃活動、隙間時間での自主的な学習など、自己実現に向け、懸命に取り組む姿を目の当たりにすることができ、何度も頼もしく、そして誇りに思ったものです。

ところで、今、卒業を迎え、あなたの脳裏に去来しているものはどのようなものですか。

毎朝、横断歩道の前で幟を持ち、「遅刻になるぞ」と檄を飛ばしてくれた先生、「やったな。やればできるぞ」と学びの心に火を灯してくれた先生。「清掃がんばろう」と師弟同行、率先垂範で共に清掃した先生、負けても翌日からコートに立ち続け、寄り添ってくれた顧問の先生。学校行事、大会に、激励、応援に駆けつけてくれた父母、兄弟たち。そして共に歩んできた仲間達。

忘れないで下さい。あの言葉で、魂に情熱の灯が灯り、ここまで頑張り続けるができたことを。美しく咲いた花には大地の栄養を十分に吸収した根っこがあることを。そして、その根っこは普段見えないことを。常に感謝の気持ちを忘れないでください。

終わりに、3年前の夏から選挙年齢が「18歳以上」に引き下げられ、皆さんは18歳の有権者となりました。民主的で平和な国家の建設は国民一人ひとりの政治的意識と実践にかかっているのです。皆さんには、政治に関心を持ち、社会を構成する一員として、与えられた権利をしっかり行使してほしいと思います。

卒業生の皆さんが本校で培った生きる力を糧に、これからも弛まず夢実現に邁進することはもとより、「国際人として」遠い他国のことにも関心を持ち、世界の平和を希求し、世のため、人のため、有徳の人生を歩まれることを心から祈念して式辞といたします。

平成30年3月1日